

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科として数多くの社会との接点をとりながら、豊かな心を持ち、自らの生き方を考えて各自の「夢」の実現に向けてチャレンジする主体的な生徒を育てるとともに、希望する多様な進路を実現できる確かな学力が身につく「進学重視の総合学科」をめざす。

- 1 多様な進路を支える教育活動を展開する
- 2 ともに学び、ともに育つ心を培う教育活動を展開する
- 3 自ら行動する人をはぐくむ教育活動を展開する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 授業の充実
 - 「新学習指導要領」を踏まえ、「授業内容に、興味・関心をもつことができる授業」「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じる授業」を行う）
 - ア 公開授業や授業アンケートを効果的に活用するとともに、教員における授業研究協議を行い授業改善に取り組む。
 - ※生徒の「総合学科アンケート」における『授業の満足度』等の肯定的な評価の割合（平成 24 年度 85％）を平成 27 年度には 90％にする。
 - イ 五つの系列の充実を図るとともに、校外で協働して取り組める学習活動に積極的に参加する。
- (2) 自らの意見をまとめ、発表して、相手に自分の意思を伝える能力の向上
 - ※生徒の「総合学科アンケート」における『コミュニケーション能力が身についた』（平成 24 年度 76％）を平成 27 年度には 90％にする。
- (3) 自ら学ぶ意欲・姿勢の定着
 - ア 自主的な学習態度が身につく取組みを行う。
 - ※生徒の「学校教育自己診断」における『自主的な学習時間が 2 時間以上の生徒』（平成 24 年度 10％）を平成 27 年度には 30％にする。
 - イ 学校行事を通して自主・自立性を育てる。
 - ※生徒の「総合学科アンケート」における『自主性を伸ばすことが出来た』（平成 24 年度 86％）を平成 27 年度には 90％にする。

2 安全で安心な学校づくり

- (1) 人権教育の推進
 - （生徒一人ひとりがそれぞれの個性を尊重しあう集団づくりを行うとともに、人権を尊重する学校づくりを行うために「心の教育」の充実を図る）
 - ア 自立支援コースの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりを推進する。
 - イ いじめの早期発見・対応などをはじめとして、生徒一人ひとりの人権を尊重する学校づくりを推進する。
- (2) 教員の人権意識の高揚
 - ※教員の「学校教育自己診断」における『人権尊重に努めている』（平成 24 年度 80％）を平成 27 年度には 90％にする。
- (3) 生徒の規範意識の醸成
 - ※生徒の「学校教育自己診断」における『自己管理ができ自己責任で行動できている』（平成 24 年度 63％）を平成 27 年度には 75％にする。

3 夢の実現にチャレンジする積極的な生徒の育成

- (1) キャリア教育の充実
 - ア「実践的キャリア教育・職業教育支援事業（取組み内容：実践的キャリア教育）」を活用することによってキャリア教育を充実する。
 - ※生徒の「キャリア教育講演会アンケート」における『講演の満足度』（平成 24 年度 90％）を平成 27 年度には 95％にする。
- (2) 部活動の充実と学校行事への積極的な参加
 - ア 部活動の活性化と入部率のアップを図る。
 - ※全学年トータルの入部率（平成 24 年度 75％）を平成 27 年度には 85％にする。
 - イ 学校行事への満足度を高める。
- (3) 生徒の対外活動の支援と地域連携
 - ア 本校総合学科の特徴である「堺学」を通じて地域と交流を図る。
 - イ 部活動や授業における地域へのボランティア活動への活発な参加を図る。

4 開かれた学校づくりの推進と学校情報の発信

- (1) 学校紹介パンフレットの刷新とホームページの充実
- (2) オープンスクールや中学校訪問による学校からの情報発信の充実

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 26 年 2 月実施分〕	学校協議会からの意見
【学習指導】 ・授業について生徒は 83％が「難しい」と評価し、「授業の教え方を工夫している教員が多い」という評価は 84％であった。今後より多くの教員の授業改善への取組みが必要である。 ・保護者の「子どもは授業が分かりやすいといっている」の評価は高く 72％であった。これについては、生徒は授業内容は難しいけれども、分かりやすく教えてもらい理解していると分析できる。 ・キャリアガイダンスについては保護者が 89％、教員が 85％、生徒が 81％適切であると高い評価を得ている。教員の取組み・生徒への働きかけをさらに強化したい。 ・選択科目に関して、保護者の 87％、教員の 79％が、生徒の興味関心に応えていると評価している。さらに魅力的な選択科目の実施をめざして行きたい。 【生徒指導】 ・学校生活に対する意識については生徒の 78％が「行くのが楽しい」と自己評価している。また保護者の 86％が「子供は学校が楽しいといっている」と肯定的で	○平成 25 年度 第 1 回学校協議会が平成 25 年 7 月 22 日に開催され、議事内容は「今年度の学校経営計画と取組み」「各分掌・学年・委員会より現状報告と今年度の取組み」についてであった。その中で協議委員から「インターンシップについて」「キャリア講演について」の質問が出され、総合学科そのものがキャリア教育と密接につながっているのもとても良い事業だと評価され、講師もキャリアカウンセラーや地域の企業の社長も良いのではと助言をいただいた。 ○平成 25 年度 第 2 回学校協議会が平成 25 年 12 月 10 日に開催され、議事内容は第 1 回の取組みの中間報告と「授業アンケートについて」であった。その中で若手教員の細やかな取組みについては外圧をかけず継続させ成果に繋げること、「ネット活用マナー」については生徒指導と人権教育が連携して規程づくりが重要であること、進路指導については受験勉強の期間の長さが大学入学後の実力に繋がるので年明けの一般入試まで受験勉強を継続すること、部活動の加入率については魅力ある部活作りと放課後の活動保障の充実で加入率のアップを図ること、「授業アンケート」については非常に良い取組みであり大学でも既に活用されており生徒向けの質問を教員用アンケートに活用しても良いと思う等のご意見をいただいた。 ○平成 25 年度 第 3 回学校協議会が平成 26 年 3 月 3 日に開催され議事内容は第 1 回の今年度の各

府立堺東高等学校

ある。今後、より安全で安心な学校づくりの取組みを強化して行きたい。 ・保護者は本校の生徒指導に 86%が肯定的であった。生徒の「自分は生徒指導上のルールを守っている」の問いでは、92%と非常に高い自己評価を得ている。大変、真面目な生徒が多く、これを次年度も持続して行きたい。また、人権教育・道徳学習の機会と内容については生徒の 81%、保護者の 86%、教員の 83%が肯定的に捉えている。いじめ、体罰等の人権侵害のない学校を継続して行きたい。 【学校運営】 ・3 年生は 91%が総合学科を選んでよかったと評価し、84%が「自分で考える力・自主性を伸ばせた」と評価し 80%が「コミュニケーション能力が身についた」と評価している。今後、総合学科の特色を活かし生徒の育成に励みたい。 ・文化祭や体育祭等の学校行事について保護者は 92%が活発であると評価し、生徒は 82%が満足している。 ・教育相談に関しては、生徒の「担任の先生以外に相談できる先生がいる」は 43%と低い数値になった。しかし、これは担任が親身になって相談にのっていることの証だと考えられるが、教育相談室の情報発信が必要である。 ・教員の「PTA 活動への参加している」が 51%と低い。教職員が参加しやすい PTA 行事内容の検討が必要である。 ・教員の「仕事の引継ぎがスムーズに行われて継続性がある」に関しては 57%と低い数値を示した。これに対しては、年度替わりの各分掌、各学年、各委員会からの PDCA を徹底的に行い次年度の課題や対策などを引継ぎ、一人ひとりが組織人として共有理解していく必要がある。	取組みの結果報告と学校教育自己診断アンケート及び 2 回目の授業アンケート結果報告を行いご意見・提言をいただいた。その中で今年度 2 回実施した校内教員人権研修の特に「セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント」の参加率が 65%と低すぎるのもっと高めるような努力をしてください。とご意見をいただき、次年度に向けて検討し改善を図りたいと思う。また、「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業が今年度で終了することに関して、委員長（帝塚山学院大学長）より大学や様々な経済同友会などを活用すればいいのではないか。というご提言をいただき、活用する方向で検討して行きたい。さらに 3 年生の大学受験に関して、指定校推薦だけでなく年明けの 1～2 月の一般入試、センター試験まで頑張れる生徒の育成が今後大事であるのご提言もいただいた。 PTA 会長より、PTA 行事への教員参加率が 51%と低いことについて、「教職員の参加率が上がれば PTA の参加率も上がるのではないか」というご意見をいただいた。今後、PTA 活動と教職員の距離感と PTA 行事の内容（教員が参加しやすい内容）の検討をする必要がある。最後に協議員より「毎回、多くの資料をいただくができれば用紙のサイズを一つに揃えてください」という要望があり、次回からは統一を図りたい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	（１）授業の充実	（１）ア 教員相互の授業公開や研究協議を通じて授業力を向上させる ・授業公開週間を設け教員相互が授業見学を行う ・教員による研究授業と研究協議を行う ・授業アンケートを実施し、自己分析を行う イ 高大連携やインターンシップを充実させる	・教員の授業見学や研究協議への参加率 95% ・生徒の授業アンケートでの「興味・関心」をもち、「知識や技能が身に付いた」等の満足度 85% ・医療系大学へのインターンシップ参加者 15 名	（１）ア・1/24 日に校内研究授業を行い、その後活発な研究協議を実施した。参加率は 84.7%であった。（○） ・前期アンケートでは興味関心 72.9%、知識技能 78.1%の満足度であった。次年度もアンケート結果や研修を通して授業内容の研究や改善に取り組みたい（△） イ・新たに協定を締結した関西医療大学の高大連携講座に 15 名が参加した。また、帝塚山学院大学の養護教諭をめざす学生が本校で実習するなど活発な交流を行っている。今後も一層高大の連携を深めていきたい（○）
	（２）自らの意見をまとめ発表して、相手に自分の意思を伝える力の向上	（２）授業発表会の機会を増やし、自分の考えをまとめ、他者の意見を聞く機会を増やす ・プレゼンテーションの機会を増やす授業を行う ・英語のスピーチ大会を実施する	・総合学科アンケートでの「自己表現や他者理解などのコミュニケーション能力が身についた」80% ・総合学科アンケートでの「自分で考える力や自主性を伸ばすことができた」90%	（２）・「小論文演習」「国語総合」等でデバート、「時事問題」「保健」等でプレゼンを実施。また英語スピーチを「英会話基礎」で実施した。アンケート結果ではコミュニケーション能力が身についたという回答が 80%であった。また、自主性を伸ばせたという回答は 84%であった。次年度も各教科で生徒の自己表現能力を高める取組みを積極的に進めたい。（○）
	（３）自ら学ぶ意欲・姿勢の定着	（３）ア 補習・講習を充実させ学力向上のために自ら様々な学習行事に参加する姿勢を育てる ・各学年・教科が主体となり、補習・講習を行う ・3 年次に進学合宿を実施する ・図書を充実させ、図書室利用頻度を高める ・自習室の活用を促進する ・家庭学習の時間を増やす	・進学合宿への参加者 80 名 ・生徒向け「学校教育自己診断」の『学習にがんばってきた』60% ・授業での図書館利用 100 時間 ・家庭での学習時間 2 時間以上 15%	（３）ア・7/29 より 2 泊 3 日で「進学合宿」を実施。宿舍の都合で宿泊人数が制限され生徒 40 名が参加した。次年度は参加者の倍増をめざしたい（◎）また、今年度から 1，2 年生も「勉強合宿」を実施することとなった。アンケートで「学習にがんばってきた」という生徒は 1 年 59%、2 年 69%、3 年 90%、全体 73%という結果あった。年度が増すほど頑張っている。家庭学習においては 2 時間以上が 1 年 17%、2 年 23%、3 年 4 月で 35%、夏休み 66%という結果が出ている。 ・今年度の校長裁量予算で自習室の充実を行った。次年度はその活用者数を更に伸ばしたい（○）
安全で安心な学校づくり	（１）人権教育の推進	（１）ア 「自立支援コース」生徒と一般生徒の授業交流の機会を増やす ・支援学校との交流会を充実させる	・「自立支援コース」生徒と一般生徒の授業交流の機会の増加 ・夏の支援学校との交流会への参加者 50 名	（１）ア・3 年次授業で「自分を語る」取組み実施した（○） ・夏の堺支援学校との交流会では生徒 40 名が参加した。今後もさまざまな交流を深め、生徒の自主性を尊重した人権教育を推進したい（○）
	（２）教員の人権意識の高揚	（２）教員の人権研修を充実させる ・教育相談体制を充実させる ・支援教育サポート校として他の高校を支援する	・教員向け「学校教育自己診断」の人権教育関連の項目での校内研修・参画度等の肯定率 85%	（２）・校内人権研修を 2 回実施した。7/24（パワハラ、セクハラ）参加率 65%、12/5（発達障がいのある生徒への支援）参加率 64%。両研修ともに講演後に活発な質疑応答がなされた。教員向けアンケートでの校内研修・参画度等の肯定率は 83%と高評価を得た。次年度も教員の関心の高いテーマを選び、人研意識の高揚を図る予定である（◎）
	（３）生徒の規範意識の醸成	（３）友人（仲間）や授業を大切にする姿勢を育てる ・校内での挨拶運動を奨励する	・生徒向け「学校教育自己診断」の『生活指導上のルールを守っている』90%	（３）自転車マナーの指導や道交法改正に伴う指導を徹底した。生徒向けアンケートで『生活指導上のルールを守っている』と答えた生徒は全体の 92%で大変、真面目である。今後も生徒の規範意識の向上に努めたい（○）

府立堺東高等学校

夢と希望をもち、夢の実現にチャレンジする積極的な生徒の育成	(1) キャリア教育の充実	(1) ア 「キャリア教育講演会」の充実 ・生徒の進路実現に向けた「キャリア教育講演会」を充実させる ・保育所、病院、老人ホームへのインターンシップの充実を図り、専門科目への理解を深める ・「志学」において大学や専門学校への説明会等への積極的な参加を図る	・「キャリア教育講演会」に係る事後アンケートの満足度 90% ・保育所、病院、老人ホームへのインターンシップ参加者数のべ 80 名 ・「大学訪問レポート」100%提出	(1) ア・10/7 卒業生サキタハジメ氏(のこぎり演奏者), 11/21 西谷文和氏(フリージャーナリスト)と斎藤仁美氏(NHKディレクター)の講演を行い 99.1%の満足度であった(◎) ・保育所 10 名、病院・老人ホーム 11 名、一日看護師体験に 7 名、計 28 名の生徒が参加した(△) ・1, 2 年生が長期休業中を活用して大学等訪問を実施した。レポート提出率は 99.1%であった(○) (2) ア・「安全で安心な学校生活アンケート」を 7 月と 11 月に実施し、「いじめ・体罰」無しの確認をした(○) ・5 月の統計では部活動の加入率は 74%であった。次年度も 80%の入部率をめざす(△) ・女子バスケットボール部が近畿大会に出場。12 月に近隣中学の女子バスケ部を対象に本校主催の「ドルフィンカップ」を開催して積極的な交流を行った(○) イ・「体育祭」「文化祭」の満足率は 82%を超えた。今後も生徒の自主性を尊重した学校行事の充実を図っていく(○) ・保健や図書各委員会が活発な活動を行った(○)
	(2) 部活動の充実と学校行事への積極的な参加	(2) ア 体罰のない部活動指導を行い、生徒と教員の信頼関係が成立した指導の充実に努める ・部活動の入部率を上げる ・地域の中学校との部活動交流を積極的に行う イ 「体育祭」「文化祭」「クラスマッチ」等、生徒主体で学校行事を行う ・生徒会活動や各種学級委員会活動を活性化する	・全学年トータルの部活動入部率 80% ・「近畿大会」以上へ出場する部活動の増加 ・「体育祭」「文化祭」に係るアンケートの満足度 80% ・各種委員会主催の企画提案の増加 ・堺支援学校との交流会参加者 50 名 ・「堺学」での授業発表機会の増加 ・ボランティア活動への参加者数のべ 80 名	(3)・堺支援学校との交流会は全学年で取組み、「社会福祉援助技術」では、はるみ小学校と交流した(○) ・堺市博物館や堺市広報等で研究発表を行った。今後も活発な活動を続け「堺学」を更に発展させたい(○) ・堺大魚夜市、敬老会、障がい者バスケ指導等に合計 188 名がボランティア参加し、地域から好評を得た(◎)
開かれた学校づくりの推進と学校情報発信	(3) 生徒の対外活動の支援と地域連携	(3) 支援学校や地元の小中学校との交流を充実させる ・「堺学」の授業において、中学校の「堺学」への取り組みを支援する ・堺市や地域のイベントに参加するなどボランティア活動を行う生徒を増やす		
	(1) 学校紹介パンフレットの刷新とホームページの充実を図る (2) オープンスクールや中学校訪問による学校からの情報発信の充実	(1) ア 中学生やその保護者の関心を惹く学校紹介パンフレットを新たに作成する イ ホームページを頻繁に更新し、学校情報を積極的に掲載する (2) ア オープンスクールを在校生主体のものにする イ 中学校からの要請による「出前授業・HR」等の中高連携を行う	・新パンフレットの作成 ・ホームページへの年間アクセス数を 4,000 件以上 ・秋のオープンスクール生徒参加者数 250 名 ・中学校からの「出前授業・HR」の依頼	(1) ア・5 月に新しい学校パンフレットが完成した(○) イ・1 年間で 62,000 件余りのアクセスがあり 1 日当たり約 170 件。時間割変更等の情報もあるので活用している生徒も多い。HP は今後も常に更新していきたい(◎) (2) ア・7/19 のオープンスクールは 638 名参加し、昨年度より 60 名増加。11/9 に実施した秋のオープンスクールは生徒 206 名、保護者等 43 名の計 249 名参加した。また、今年は 10 回の「ミニ学校説明会」を実施し 170 家族の参加があったので、次年度以降も続けたい(◎) イ・出前授業の要請は無かったが、学校説明会の依頼は中学 8 校、市教委から 4 件あり、全て参加した(○)